

県研究主題 児童一人ひとりの生きる力を育む指導計画及び指導の工夫・改善

提案1

提案者 小林 美代（川崎地区）

<研究主題> 一人ひとりが進んで探求的な学習に取り組むことができる学習活動の創造
～「里山を見つめて」の実践を通して～

1 提案内容

学区にある早野の里山のよさやそれを守る人々の努力や思いを調べ、適切な方法で発表することを通して、地域の里山に愛着をもって地域の人々と触れ合い、地域の一員であるという自覚を持ち、進んで地域や社会に参画しようとする態度を育てることを目標とした実践。本単元は大きく分けると、探究活動Ⅰ「早野の里山のよさを調べよう」と探究活動Ⅱ「里山を守るためにできることを考えよう」の2つから構成される45時間の単元である。研究主題に迫るために、様々な手立てが盛り込まれ、これらの支えのもと、充実した活動が展開されていった。

(1) 具体的な手立て

① 探求的な学習を支える手立て

早野の里（調べる事象）に興味を持ち、共通課題を設定し、調べたいことを明確にする。

ア 身近な里山に興味を持つ

- ・ビデオ視聴を通して、里山に対するイメージを見直し、気持ちを高める。
- ・自分の目で確かめに行く。1回目の探検の際、里山ボランティアの方に作業をしてもらい自然な形でボランティアの方の存在に気づけるようにした。

イ 気づいたことや疑問に思ったことから、調べたいことを明確にする

- ・各自の課題のみにならないよう、共通のテーマを設定することで、学級で話し合ったり教えあったりするような協同的な学びとする。
- ・各自の感想を付箋に書き座標軸が記入された台紙に貼り、調べる内容を整理する。共通テーマを分担して調べていく感覚が芽生え、それぞれの調べる事象のつながりにも気づきやすくなる。

ウ 調べ方や学び方を知る

- ・現地調査前に、適切な調べ方や前もって行うべき活動について、グループごとに支援していく。
- ・本やインターネット以外の調べる方法を提示する。インタビューやアンケートなど人との関わりのある活動を取り入れる。

② 言語活動を充実させるための手立て

話し合いの場の設定と相手意識を持って効果的な発表の仕方を考えさせる。

ア ミニミニサミット（数人のグループで伝え合う場）でのグループ交流

- ・調べたことを、伝えたいことを吟味しながら各自が1枚の用紙にまとまる。
- ・少人数グループでの発表とすることで、自信を持って堂々と話しやすくする。

イ 相手意識を持った伝え方

- ・アンケート結果を分析することで、相手（聞き手）側の傾向をつかみ、効果的な発表に結びつけられるように、発表内容・方法を考えていく。

③ 一人ひとりの学習を見取り、支援するための手立て

- ・その時間のねらいに合わせたワークシートを活用する。
- ・学習の軌跡を一覧表（見取り表）にまとめる。

(2) 成果と課題

共通のテーマを設定したことやミニミニサミットなどの活動から、普段は交流の浅い児童の間にも、お互いを認め合う場が生まれた。総合的な学習の時間を通して学級が育つという実感が得られた。地域素材を扱うことで、地域の実態を知ったり、地域のボランティアの方と交流したりするなかで、自分たちも地域のためにできることがあるとの意識が芽生えた子もいた。限られた時間での学習を成立させるために活動や体験を精選すること、他教科との関連（アンケート分析）、評価規準とその見取り方などは課題が残った。

2 協議内容（質疑応答）

Q 全体計画によると3年生で地域、4年生でも環境を通して地域を学習しているが、6年生で里山（地域素材）を扱ったのはどうしてか？

A 学校として数年間積み上げたものがあり、ボランティアの方との関わりもあったので、継続して里山を扱った。赴任した初年度の実践であり、里山という教材が使えるかどうか掘り起こしながらも、発表会ありきの流れなどは改めていった。繰り返し訪れることのできる地域素材で、地域の方と関わる中で学習することができ、教材価値もあると感じた。3年生の地域はおはやしに関する活動が中心である。

Q 活動の形態は学年なのか学級なのか？

A 単元の導入やゲストティーチャーやボランティアの方が関わる時間は学年での活動となるが、そこに至るまでの活動は学級単位で行った。

Q 里山に行った回数は？

A 学校からの所要時間は15分程であり、1回の探検は、休み時間なども含めて2時間枠となる。6年生全体では3回行き、さらに現地調査が必要なグループは4回訪れた。

3 まとめ

総合的な学習の時間は、学年で扱う内容が決められているなど学校によって様々である。本実践は里山を扱ったが、里山を使って探求的に学習を進める資質能力を育てるという視点が大切である。一度構築した地域との絡みは切りにくいという状況もある。そのような中、本実践は児童の認識のギャップを意識づけに取り入れ、無理のない導入ができています。また、探究活動Ⅰ、Ⅱの2つのテーマを設定したことにより、見通しをもって活動することができた。インタビュー活動においては、その場に応じた適切な言葉づかいで行えるような手立てもみられた。

それぞれの探究活動において、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習流れがスパイラル的に連続しており、今後の生きる力を育むためのスキルが定着した実践であった。

<研究主題>

児童一人ひとりの生きる力をはぐくむ指導計画及び指導の工夫・改善
～言語活動を重視した 子どもの「思い・願い」をいかす授業づくり～

1 提案内容

子どもは、言語化することで考えが明らかになり、考えることでさらに言語活動が進んでいく。そこに子どもの「思い・願い」が表れると考える。言語活動を充実させ、整理・分析等の様々な手だてを工夫して活動していくことで、課題に対しての「思い・願い」が明確になり、考えが深まり、さらなる課題が出てきたり、活動意欲が高まったりしていくと考える。

以上のような「仮説」を、厚木・愛甲地区小学校教育研究会総合的な学習の時間部会で立て、部会の学校によって活動内容は違うが、言語活動を重視し、活動の工夫について考えていくことでテーマに迫りながら実践を行った、昨年度の荻野小学校4年生の取組と、今年度の厚木市立愛甲小学校4年生の取組。

(1) 研究の取り組み**① 荻野小学校での取り組み**

荻野小学校の4年生では、社会科や理科との関連を重視し、3年生の活動を深める形で総合の学習に取り組んだ。その中の大きな活動が「バードウォッチング」である。荻野小学校で伝統的に行われている活動の一つで、地域の方を講師として取り組みが続けられているものである。子どもたちが、自分たちの住む地域に興味関心を持ち、バードウォッチングの活動を通して、地域の自然に理解を深めてほしい。そして、地域について分かったことを様々な方法で発信してほしい。そのような願いのもと、「荻野探検隊」という活動を計画し、取り組んだ。

② 愛甲小学校での取り組み

愛甲小学校の4年生では、「玉川たんけん隊・伝え合おう心」をテーマに、地域の自然にふれ、調べる活動を行っていく。本単元では、玉川について新たな側面に気づき、自ら課題を探究して解決していく力を育てたい。児童が玉川について興味をもつであろう内容として、水の中の生物、水際の植物、川をめぐる地域の歴史などが考えられる。これらの課題から、川の環境や自然環境を守ろうとする態度を育てたい。そのようなねらいのもと、本活動を計画し、取り組んだ。

③ 研究の成果と課題

～成果～

- ・個人の記録だけでなく、話し合いによる体験活動内容の共有化や、ウェビングによる思いや気づきを整理分析することにより、どの子どもも活動内容が捉えやすくなった。その結果、子どもたちが活動の見通しを自らもてるようになり、活動に対する意欲が高まった。
- ・体験から得た情報を効果的に整理することで、活動そのものを把握しやすくなっただけでなく、活動に対する自分の考えや、次にどんなことをしたらよいか分かり

やすくなった。また、そこからさらに新たな考えや気づき、疑問を持つ視点が育ち、活動に対する考えや思いの深まりが感じられた。

～課題～

- ・活動後の振り返り等の言語活動は、活動のねらいを念頭に、何のために振り返りをするのか、そこからいかせることはあるのか等、教師側も子どもも明確にすることが大事である。
- ・「目指す子どもの姿」を具体的にイメージして、一つひとつの活動の積み重ねをしていくことが大事である。
- ・「目指す子どもの姿」のイメージに近づけるために、どんな手立てが必要か、活動内容と子どもの実態とを合わせて、よりよい教師側の仕掛けが必要となる。

2 協議内容

- (1) 課題設定（子どもの課題意識の醸成）について
バードウォッチングと地域をつなげて単元を作るというという計画。教師の願いは「地域とのつながり」であった。鳥を通して地域を知る活動にしたかった。
- (2) 情報の収集、整理・分析（子どもの変容、体験活動の位置づけ）について
子どもたちは自然に目を向け、地域を知ることができた。自分たちで調べることが楽しいと感じ、主体的に学ぶことができるようになった。バードウォッチングへの動機づけとして、川を位置づけているのは児童の興味としてはよかった。
- (3) 言語活動の充実について
全ての児童の考え（意見）を出させる難しさを感じた。

3 まとめ

- (1) 教師が「目指す子どもの姿、つけたい資質や能力」をしっかり持つことが大事である。そのうえで、単元をデザインする。
- (2) 長い単元計画で、教師が意図（仕掛ける）した活動が大事である。子どもが「気づいた。」と思わせるような計画が必要。
- (3) 伝統的な学校での取り組みを、その学年の教師がどうデザインするかが大事である。

4 グループ協議

テーマ「探究的な学習活動を充実させるための工夫について」

- 単元構想は学校全体で検討し、教員が構想を練る。見通しを持って教員自身が探求的に取り組む。児童に敢えて壁を設けるように仕掛ける。
- 児童の未来に向け、目指す子ども像（育てたい資質・能力、態度）を明確にする。
- 教員が地域の学習材を知り、体験だけでない課題解決学習を行う。
- 豊かな体験学習にかかる。教員側の用意、意図、手立て、仕掛けの充実。